

憲法しんぶん 速報版

発行 憲法改悪阻止各界連絡会議（憲法会議）

2015年8月21日（金）

第541号 本号3頁

Eメール mail@kenpoukaigi.gr.jp
ホームページ <http://www.kenpoukaigi.gr.jp>

TEL03-3261-9007
FAX03-3261-5453

8・30 大行動スローガン

「この日、私たちが、 戦争しない未来をつくる。」

10日後に控えた「戦争法案廃案！安倍政権退陣！8・30国会10万人・全国100万人大行動」、「この日、私たちが、戦争しない未来をつくる。」のコピーを掲げ、東京で、首都圏で、全国で成功にむけた取り組みが進んでいます。

国会10万人大行動、全国100万人大行動プログラム枠確定

大行動のプログラムの大枠が決まりました。

国会前の集会は、正門前に舞台を設置します。戦争させない・9条壊すな！総がかり行動実行委員会とこの大行動に賛同する広範な諸団体の共同で開催されます。

14時の開会までのオープニングコンサート、14時開会后、政党代表、ゲスト・連帯スピーチなどのプログラムが進むなか、全国いっせいコールが14時から、15時から、15時55分からそれぞれ5分間行われます。このコールにあわせ、プラカードを掲げ、コールをあげ全国のさまざまな行動が一体となって、安倍政権を追い詰める大行動を呼びかけています。16時閉会となります。クロージングコンサートが行われます。

16時15分から17時までSEALDs主催の集会となります。

国会周辺エリアにはスピーカーを設置します。スピーカーの台数が増やされ、これまでの国会包囲行動に比べ広い範囲で聞くことができます。

日比谷公園霞門に宣伝カーによる第二ステージを置き、霞ヶ関・日比谷エリア一帯に数台の宣伝カーを配置、それぞれでスピーチ、コールが行われます。当日の多くの参加者でごったがえすことを予想して、最初から霞ヶ関・日比谷エリアへの分散参加を呼びかけています。

救護体制はより充実され、医師・看護師数十人の体制、救護車の配置、宣伝カーへの医療関係者の常駐、AEDの用意などもされます。「医療班のぼり」が掲げられます。

参議院特別委員会 来週25日も集中審議

8月21日午後、3時間の集中審議が行われました。これで、総審議時間は51時間11分となっています。

25日（火）は9時から17時までの7時間の集中審議が行われます。首相も出席し、NHKが中継します。21日の理事懇談会で確認されています。

この理事懇談会では、自衛隊文書に関連する統幕長証人喚問要求、安倍首相のヤジ、中谷防衛相の不適切答弁、自民党幹部による採決日程発言などが問題になっています。また28日に参考人質疑の提案がされましたがまとまっていません。

また、24日（月）には参院で予算委員会が開催されます。首相が出席、NHKが中継します。

中谷防衛大臣、統合幕僚監部の内部文書の存在認める

法案閣議決定の翌日（5月15日）大臣が指示し、5月下旬に作成

午前10時から始まった特別委員会の冒頭、中谷元防衛大臣は日本共産党の小池晃議員が8月11日の同委で暴露した統合幕僚監部が作成した内部文書について、「私の指示をふまえて法案の閣議決定後の5月下旬に作成したもの」と認めました。また中谷大臣は「法案成立後に具体化していくべき検討課題をあらかじめ整理し、主要部隊の指揮官等に理解してもらうことを目的に、内部部局と調整しながら作成した」と説明し、「この資料の内容は私の指示の範囲内のものであり、法案成立後に行うべきものである実際の運用要領の策定や訓練の実施、関連規則等の制定は含まれておらず、シビリアンコントロール上も問題はあると考えておりません」と開き直りました。そして資料が外部に流出したことは極めて遺憾であり、本件を受けて文書の取扱いに関する規則の遵守を徹底するように改めて指示をしたと情報保全には万全を期すなどと述べました。

陸海空の高級指揮官 350 人が参加したテレビ会議で説明

これを受けて質疑に立った小池議員は、まず事実の確認を行いました。中谷大臣は、「5月26日に防衛省の統幕で行われましたテレビ会議、これは陸海空の高級指揮官に対して、この法案そしてガイドラインを説明する会議において使う資料として作成され、その前日の5月25日に、統合幕僚長から翌日に全国の陸海空指揮官に対して法案の説明を行うという説明を受けておりましたが、資料については見ておりません」と答弁。

さらに小池議員はテレビ会議の出席者などを確認しました。担当局長は次のような350人が参加したと答えました。

「会議の概要：会議は統合幕僚監部が開催。統合幕僚長も出席し、各幕僚監部あるいは内局、内部部局の職員のほかに、陸上自衛隊は、北部方面総監、東北方面総監、東部方面総監、中部方面総監、西部方面総監、中央即応集団司令官。海上自衛隊は、自衛艦隊司令官、横須賀地方総監、呉地方総監、佐世保地方総監、舞鶴地方総監、大湊地方総監。航空自衛隊は、航空総隊司令官、航空支援集団司令官、北部航空方面隊司令官、中部航空方面隊司令官、西部航空方面隊司令官、南西航空混成団司令官といった主要な部隊、部内ではメジャーコマンドと称している主要な部隊の指揮官本人又はその代理者及びそのスタッフが参加し、統合幕僚監部の担当者より説明を行った。」

大臣答弁にも反する重大問題

「軍軍間の調整所を置く」はガイドラインや法案に書かれていない

小池議員は、中谷氏大臣が内部文書について、8月11日の特別委員会で「法案が成立した後、これは検討を始めるべきもの」と答弁していたことを指摘しました。大臣指示で作られていたのなら「大臣自身の答弁にも反する」とただしました。中谷大臣は「統合幕僚監部として当然必要な分析・研究を行った」と答弁。小池議員は、「内部文書は、法案の中身にもガイドラインにないものも出ているわけだから、これは大臣の答弁にも明らかに矛盾する。分析・研究にとどまらず、『平和安全法制に基づく主要検討事項』となっており、国会無視の暴走だ」と批判しました。

中谷大臣は「(文書には) 実際の運用要領の策定、訓練の実施、関連規則の制定は含まれていない」として、「内容に問題はない」と主張しました。小池議員は、「国論がこれだけ二分している問題。それを、自衛隊という実力組織を具体的にどう動かすのかということを事前に検討するという問題だ。一般的な法律の検討とは訳が違う。しかも憲法違反の内容だ。その中身は、例えば『同盟

調整メカニズムの中に常設の軍軍間の調整所を置く』、ガイドラインにだって法案にだって書かれていない。それが検討事項の中に書かれている。これを先取りと言わずして何と言うのか、『運用要領の策定』などは、検討を通り越した法案の具体化ではないか。苦し紛れのごまかしだ」と強く批判しました。

19日の特別委員会は、11日に審議が止まり散会していたので、小池議員の残りの16分と、その他の会派の質問が午前中行われました。

社民党の福島瑞穂議員も内部資料を取り上げ、「国会をなめるな、国会軽視だ」と批判しました。また、南スーダンにおける駆け付け警護の問題も、「駆け付け警護がなぜ今まで禁止されてきたか、そしてそれはどうして今回変えるのか、そしてそのことでどういう問題があるのかということをつっ飛ばして、南スーダンPKOで駆け付け警護をする可能性があります。現場が法律を食い破っているというか、法律がまだ成立もしていないばかりか、これから議論が始まる段階で、何でここまで言えるのか」と追及しました。

無所属クラブの中西健治議員は、集団的自衛権の国際法上の概念の整理について質問。生活の党と山本太郎となかまたち共同代表の山本太郎議員は、今回の戦争法案は、2000年10月に第1次、2007年2月に第2次、2012年8月に第3次として報告が公表された「アーミテージ・ナイ・レポート」を基につくられた、と対米従属性を指摘。「アメリカの、アメリカによる、アメリカのための戦争法案には断固反対、廃案以外はありえない」と結びました。

元氣、次世代などは法案を評価しながら質疑

一方、日本を元気にする会の井上義行議員は、この安保法案で陸上自衛隊が拉致被害者を救出できるかどうかと質問。「北朝鮮内部において内乱があった、あるいは北朝鮮と韓国との間で交戦があった場合に、今の自衛隊法の改正で救出できるのか」などを質問。次世代の党の和田政宗議員は、「しっかりと日本の抑止力を高め、国や国民を守る体制を構築しなくてはならない」「安保法制については、その第一歩であるという点を評価する」とし、「巡航ミサイルで敵基地を攻撃することは法理上可能か、憲法上可能か」などを質問、抑止力の観点から巡航ミサイルの配備も考えるべきではないかと発言しました。